

「土砂災害への対策」

和歌山県 田辺市立高雄中学校 1年 ^{こんどう}近藤 ^{のぼる}旦昇

土砂災害で恐ろしいことは、自分では予想できないほど、強い力でおそってくることに、予想できないことが起こることだと思います。

2年前、紀伊半島にもういをふるった台風12号は、田辺市に大きな被害をもたらしました。山が崩れ、道は通れなくなり、家を壊しました。その土砂災害は、予想のつかないほど大きなものでした。台風12号の被害により、田辺市の山の奥にある熊野地区には土砂ダムができて、一時期、テレビで連日放送されました。

では、どうすれば、予想のつかない土砂災害から身を守れるのでしょうか。そこには、すべての災害に共通する意識をもつことが必要になってくると思います。台風などを甘くみないという意識、「災害はここで絶対起きる」という意識が大事です。

ぼくの考える防災用具は、非常食、笛、そして、土砂災害では、石が降ってくるかもしれないため、身を守るためのヘルメット、川の流域に住んでいる人は、ライフジャケットです。また、一番安全なのは、強い台風がくる前に、山の多いところに住んでいる人は、必要最低限の荷物を持って、山の少ない地域に避難することです。しかし、面倒くさい、お金がかかる、高齢者の負担が多い、宿泊施設がないかもしれないなどの問題点もあります。

それに対する対策は、まず、お金の補助です。台風がくる前には、バス代を割引するなど、避難する人の負担を減らすことが第一です。

土砂災害の恐ろしいところは、予想外のことが起きるところです。『新潟中越地震』は、津波は起きませんでしたでしたが、いろいろな問題を引き起こした地震です。前日の大雨の影響もあり、地盤がゆるんでいました。そこに大地震が起き、幹線道路が土砂崩れしました。それにより、災害支援の車、食料配給の車も通れなくなりました。土砂による被害は、それだけ大きいものなのです。

大地震による被害は、揺れと津波によるものだけではなく、あまり関係のなさそうな土砂災害も、その中に含まれます。『新潟中越地震』では、津波が起きなかっただけ幸せでしたが、もし起きてしまっていたら……。考えただけでぞっとします。

仮に、地震が起こったとしましょう。前日の大雨もあり、あちらこちらで土砂崩れが起こります。『東日本大震災』のときのように、人々が高台に逃げようとします。しかし、避難するときに、道が崩れたり、土砂が崩れたりし、逃げられなくなります。そこに大津波がきます。そうなれば、みんなは津波に飲み込まれてしまいます。

そうならないために、津波の対策ばかりを考えるのではなくて、土砂災害も視野に入れた対策もしなければならぬと思います。法面を補強したり、ハザードマップに、「地震の影響で、土砂崩れが起きる可能性」を付け加えたりすればよいと思います。また、幹線道路の地盤を強くすることが重要です。

さらに、もう一つ予想がつかないと考えられるのは、『土砂ダム』です。2年前の紀伊半島をおそった台風12号のニュースで、今まで聞いたことのない『土砂ダム』という言葉が毎日、耳にするようになりました。

土砂ダムが崩れると、どのようなことが起きるのでしょうか。もし、土砂ダムが崩れたら、たくさんの水が川に流れます。流れたら、あっという間に下流に流れます。下流は、人口が多いと考えられるので、大

きい被害が出ます。また、流れる速度が速いので、特に、高齢者が被害にあってしまうと予想できます。

しかし、土砂ダム自体は、対策のしようがありません。だから、流れる前、流れてからの対策が重要です。流れた瞬間に、設置していたセンサーの糸が切れたら防災無線にすぐ伝え、防災放送で「早く避難してください。」とずっと流します。まだ不十分な点はありますが、これしかできません。

土砂崩れにより、予想外のことが起こる。

土砂災害の恐ろしさ。

最悪のパターン。

一番大事なことは、土砂災害を甘くみないということです。きちんとした対策をすれば、減災、防災になります。人々の意識一つで、減災、防災になり、そして、明るい未来が見える、いや待っているかもしれません。

意識一つで、みんなが救われるのです。